

H29 職員による学校自己評価(中間評価)

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 回答総数 75

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標	
				A	B	C	D		
1	学校づくり 新しい学校づくりの完成に向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育および IV期 SSH のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	SSH 4 期2年目、普通科課題探究（2年）の取り組みにおいて、6月中に全職員による課題研究グループへの指導、夏休みの5日間の調査・まとめ、休み後の学校公開日におけるポスター中間発表会の実施。（委員会）	課題探究内容の充実と発表・まとめ方法の検討とその評価の検討実施。（委員会）	36	33	5	1	84.7	
		国を越えた学校交流を目指し、キャンベラカリッジと連携検討。（委員会）	キャンベラカリッジを対象に、国際的な高校生同士のサイエンスを中心とした交流の在り方の模索。（委員会）						
		これまでに築いてきたプログラムの発展的継承・維持。（委員会）	一人一研究・一研究αのクラス・全体発表会の充実。理数科課題研究の充実。授業を発展的に深化させる外部講師との連携授業の検討。（委員会）						
		高校3年の講座編成について、関係部署と連携して早めに検討することができた。（高2）	内容も多くなってきたので精選も含めて検討していきたい。（中3）						
2	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	例年同様に、朝、放課後、土曜補習を行い、夏期休業中には通常補習と2次対策補習を行なった。学習合宿は3泊4日で実施した。（高3）	補習への参加や1棟での自習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。（高3）	37	36	2		86.7	
		「文理別進路講演会」「東北サイエンス交流会」「屋代ミニ大学」等の企画を計画実行できた。（高2）	さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要である。（高2）						
		文理それぞれの進路講演会を実施。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路に対する意識を深めることができた。（高1）	文理選択と2・3年次への繋ぎの検討。（高1）						
		夏休みのジョブシャドウイング、6月と9月のキャリア講演会、大学企業見学などを実施することで進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。（高1）	文理選択などの指導を通じて、2年次以降の学習へスムーズにつながるよう指導・支援することが大切である。（高1）						
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	学年行事「能登臨海実習」「福祉体験学習/キャリアプランニング」「イングリッシュキャンプ」「学習合宿」を実施した。（中学）			44	29	2		89.0
		節目節目で学年集会を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また、定期的に学年通信を発行し、必要な情報を届けている。（高3）	模試、センター試験、個別試験、推薦に関する情報を更にかきめ細かく発信していく。（高3）						
		学年通信・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。（全学年）	更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。（全学年）						
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を広げることができたか。	学年通信、学年PTAを通してキャリアに関する情報を発信した。参観日に、保護者にキャリアインタビューを行った。3年では、特に大学の共通テストの情報発信も重視した。（中学）		全体的に進路決定は3年後であるが、自分の適性を考えるということを意識させていきたい。（中3）	31	40	4		84.0
		科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。（高3）	模試の結果をふまえつつ、あきらめずに最後まで頑張らせた。（高3）						
		学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。（高2）	高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。（高2）						
		テスト前の補習体制の充実をはかった。進路講演会、文理適性検査を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、文理選択説明会等でも話の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。（高1）	各成績層に応じた取り組みの重視。および、2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を行いたい。（高1）						
	生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	考査前に質問講座や学習会の場を設けた。学力推移調査の見返し補習を行った。（中学）			34	35	6		84.3
「学習計画・実績表」を毎日記録させることで、生徒の家庭学習の実態を把握・分析し、面談等で指導に利用した。また、模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。（高3）		生徒のメンタルな部分も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。（高3）							
5月末の面談週間を鳩祭明けに変更し、オープンキャンパスを軸に志望大学等を考えさせる指導・支援ができた。（高2）		修学旅行明け、11月以降スムーズに受験体制へ移行できるようにしたい。（高2）							
各考査の成績や春秋のスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。（高2・高1）		指導・支援を継続していく。（高2・高1）							
	学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、学年全体としても改善すべき点を確認、検討した。（高1）		生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。（高1）						
	各教科では、考査後に補習を設け学力定着を行うとともに、課題の課し方について検討し、個別の相談や指導を行った。（中学）								

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	A	B	C	D	指標
3	学習指導	魅力ある、質の高い授業を提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	教員間の授業公開を行い、フィードバックシートで授業者への還元を行った。また授業アンケートもを行い、授業評価と授業における改善点を認識することができた。(委員会) 集中学習会では、集中して学習に取り組めた。(中3)	教員間の授業公開および授業アンケートを繰り返し実施し、授業の質が向上しているか確認する。(委員会) 日常の学習でどのように左記の力を生かしていくのか検討したい。(中3)	35	33	7	84.3
		生徒の学習実態調査(家庭学習時間など)の結果を分析・研究することができたか。また、分析・研究の結果を指導に活かすことができたか。	スタディーサポートを行い、生徒の生活実態の把握・分析を面談などで活用した。(委員会) 「学習計画・実績表」を毎日記録し、データ化することで、生徒の学習意欲の喚起に役立てた。(高3)	学習実態調査を継続し、分析した内容を共有する。(委員会) 学習時間と成績の相関を示し、さらに効果を上げたい。(高3)				
4	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	係のみによる立ち番指導も含めて3回の街頭指導を行った。夏休みまでは例年と比べて事故は少なかった。(係) 心身ともに健全な学校生活を送れることを第一に指導した。(高2)	9月以降交通事故が増えてきているので、HRでの呼びかけを増やし注意喚起をし続ける。(係)	34	35	6	84.3
		いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	具体的な指導はなかったが、問題となるような案件もなかった。(係) 学年全体でロッカーの施錠を徹底し、盗難の未然防止に努めた。(高1) 級友の個性や特性に対し、柔軟に対応できる生徒が多いと思われる。(中3)	いじめ・悩みアンケートを実施して実態の把握に努める。(係) 指導を継続したい。(高1) 集団生活を向上させる意識をさらに育てていきたい。(中3)				
5	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	8月30日に職員研修を実施。法務省人権擁護局・公益法人人権教育啓発推進センター制作のDVD「同和問題～過去からの証言、未来への提言～」を視聴し、同和問題とそれへの対応の歴史を学んだ。(係) 昨年度と同様に学年全体の交流や団結を常に生徒にも呼びかけ、行事ごとに実践してきた。(高2)	10月5日人権教育講演会・2月1日人権教育LHRにむけて計画を練る。(係) 前期の取り組みを継続したい。(高2)	42	30	3	88.0
		本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらおうことができたか。	昨年度立ち上げのSSHポータルサイトにおけるSSH活動の紹介。(委員会) 行事を中心とした学校生活の様子をポータルサイトで写真を含めて紹介し、保護者や地域・県内の小学生に情報を提供してきた。(係) 学年通信等で発信できた。(高3) 保護者説明会でも本校の様子を説明し、在校生の保護者にご理解いただいた。(高2)	SSHのポータルサイトの定期的な更新。(委員会) 学校行事に限らず、日々の様子を頻度を多くしてポータルサイトに公開していく。(係) 各班の結果等更なる情報提供を働きかける。(係) さらに充実した内容にしたい。(高3)				
全体	生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	最大行事である鳩祭は、全生徒会員の協力により成功した。教職員の支援も十分に行われ、中高一貫が完成した節目となる鳩祭となった。(係) 委員会活動や鳩祭における中高の協力体制もほぼ確立された。(係) 執行部と評議員の立場を明確に区別して活動を行い、議会のチェック機関としての働きができるように、審議や、中間監査を進めることができた。また、前年度踏襲だけではなく、執行部の目指す方向を明確にして活動している。(中3)	新役員を中心に、今年度活動の成果と課題を踏まえ、来年度の活動や行事の企画・立案などを時間をかけ、入念な話し合いを行いたい。(係) 中高でより一体感のある活動ができるとさらに良い。(係) 生徒会の引き継ぎに向けて、単なる実務の引き継ぎにならないよう、目的と成果、そのための手段を明確にしておく。(中3)	44	28	3	88.7
		生徒一人ひとりが、生き生きとした活動ができたか。	日々の委員会活動は、生徒と顧問が連絡をとりあい、順調に進められている。生徒会選挙・立会演説会も充実したものとなった。(係)					
5	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	清掃用具の破損、不足分について迅速な対応を心掛けた。(係) 比較的前向きに清掃に取り組んでいる。目標を持たせるよう支援してきた。(中3)	ゴミの分別と落葉清掃を徹底したい。(係) 清掃の充実感をさらに味わえるような支援をしていきたい。(中3)	33	30	12	82.0

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点となるように換算しました。【換算式】25×(4点×Aの数+3点×Bの数+2点×Cの数+1点×Dの数)÷総数